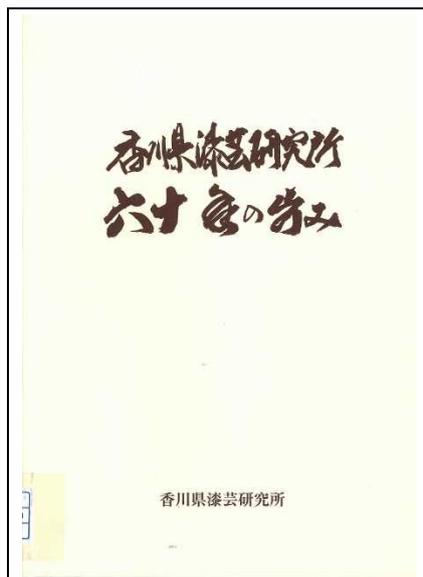


香川県漆芸研究所六十年の歩み



(「序」から)

香川県漆芸研究所は、昭和 29 年に香川県の伝統的漆工芸である蒔醬(きんま)、存清(ぞんせい)、彫漆(ちょうしつ)などの技法を保存し、後継者の育成と技術の向上を目的とする全国初の施設として設置され、このほど 60 周年を迎えました。

漆芸研究所は、創立以来、故磯井如眞氏、故音丸耕堂氏、磯井正美氏、太田儒氏ら重要無形文化財保持者(人間国宝)をはじめとする優れた指導者を講師として迎え、高い技術と精神を伝承してきました。昭和 33 年 1 月に第 1 回修了者を送り出して以来、現在までの修了者は 400 人を超えており、漆工芸作家や漆工技術者として香川の伝統的漆工芸や漆器産業の振興に大きく寄与しています。平成 25 年 9 月には、当研究所工芸指導員の山下義人氏が修了者として初めて重要無形文化財蒔醬保持者に認定されました。このことは、本研究所の質の高さをあらためて示すものと存じます。

本研究所が、このような発展の下に 60 周年を迎えましたことは、誠に喜ばしい限りです。これも偏に、関係の皆様方の長年にわたるご尽力の賜物であり、深く敬意と感謝の意を表します。

香川の漆芸は、200 年近くの歴史があり、江戸時代から受け継がれてきた独自の技法で箸や椀などの生活漆器から高級家具、美術工芸品に至るまで、さまざまな漆器、漆芸品が作られています。

県では、香川県文化芸術振興計画において、優れた若手漆芸作家の育成による漆工芸の技法の継承を図るとともに、現代社会のニーズに対応した香川漆器のデザイン開発などによる新たな市場開拓や積極的な情報発信により、漆器産業の振興を図ることとしています。

創立 60 周年という節目を新たなスタートとして、香川漆芸の技法を受け継ぐ後継者の育成はもとより、漆芸研究所が香川漆芸の拠点としての役割を果たせるよう努めてまいります。